

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

当院における超高齢入院心不全患者の心臓リハビリテーションの現状について

2. 研究の対象患者

2018年12月から2023年11月に当院に入院した心不全患者さん

3. 研究の対象期間

2018年10月1日～2024年7月31日

4. 研究の概要

全国的な調査によれば、心不全による入院患者のうち80歳以上の高齢者が占める割合は、半数を超えて増加していることが明らかとなっており、平均年齢は84.7歳と高く、80歳以上が76%を占めている。当院においても80歳以上の心不全患者は増加しており、90歳以上の超高齢心不全患者も以前より多く経験する。80歳以上の高齢患者では、入院時に既に介護保険の認定者が67%おり、要介護3以上の重介護者が35%にも及ぶこと、入院時に歩行、排泄が自立している患者が、それぞれ32%、23%と著しく低いことが報告されている。また我が国におけるFRAGILE-HF研究では、高齢者ほど身体的フレイルのみでなく、社会的、精神心理的フレイルの複合的合併が多くなることが示されている。このことから、うつ血の病態を速やかに改善させても、離床困難、退院困難となる例が多い。それでも心不全患者に対する心臓リハビリはどの年齢層においてもADL改善効果を有し、超高齢者においてもリハビリによるADL改善効果が他の年齢層と同等であることから、入院期から維持期まで、すべてのフェーズで実施されることが重要である。

このような背景の中で、当院の90歳以上の超高齢心不全患者リハビリの状況は不明であり、その把握は当院の心臓リハビリの質向上に有用である。そこで本研究では、その現状を把握し問題点を抽出することを目的とした。

5. 研究実施予定期間

2024年1月17日～2024年7月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕：生年月日、年齢、性別、身長、体重、BMI、既往歴、合併症、入退院日、手術名・手術日、診断名、入院前住居(自宅、介護施設)、介護保険認定有無、ADL、リハビリ実施日数、実施単位数、入院期間、転帰、外来心臓リハビリ移行状況

〔血液検査〕：RBC、Hb、WBC、BS、HbA1c、LDL、HDL、T-CHO、TG、BUN、Cre、eGFR、GOT、GPT、LDH、CK、CRP、TP、ALB、Na、K、Cl、Ca、BNP

〔生理学的検査〕心電図、心エコー、レントゲン結果

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究結果を研究対象者（又は代諾者）個々に開示することはありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも

患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： リハビリテーション科 横谷浩士

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)